

第十一章 日本復歸後

第一節 議会

一 議員名簿

○昭和三十一年九月～三十五年九月 定数二十人

市来政興(油) 本田義明(油) 梶原介徳(和) (33・11死亡) 川
辺隆義(手) 伊勢福英(手) 関根直秋(手) 伊地知季良(膏) 池
下前宜志(出) 三島安澄(睦) 中屋利秀(團) 竿田吉秀(團) 末
川寅吉(團) 東伊志郎(西) 竹下池光(根) 安田前間(玉) 伊井
重保(玉) 美野義仁(膏) 池田内義(内) 岸田宜志則(谷) (33・
5死亡) 村山栄富(瀬)

三十一年から町長の施政方針演説が行われた。

三十二年から監査委員が設置され、従来決算認定に伴
う議会代表による出納検査が廃止された。

三十三年十二月庁舎移転に伴い二階通路一角に議会議
務局を設置し、二十九年から任命された書記長は事務局

長となり、三十五年には農業委員会との兼任書記を含め
職員一名となる。三十四年から六月・十二月に期末手当
が支給されるようになった。

○昭和三十五年九月～三十九年九月 定数二十人

本田義明(油) (39・7依願退職) 菅村芳憲(油) 大吉正訓(和)
川辺隆義(手) 市来有(三) 大坪政照(手) 関根直秋(手) 伊
地知季良(膏) 池下前宜志(出) 池野新秀(睦) 竿田吉秀(團)
末川寅吉(團) 東伊志郎(西) 竹下池光(根) 中山前福(玉) 伊
集院武一(大) 重村邦英(古) 池田内義(内) 金元良治(後) 中
村源吉(仁)

三十六年から施政方針に対する一般質問が行われ、三
十七年から独立した日程で一般質問がなされ、三十九年
から通告制を採用している。

三十六年七月に地方議会議員互助年金制度が発足。三
十七年、第二室戸台風災害対策特別委員会・谷山地区農
道対策特別委員会を設置した。三十七年十二月に地方議
会議員年金制度が発足し、議会議員の通算就職年数十二
年以上で議員でなくなった者は、五十五歳から年金が支
給されるようになった。

三十八年四月議長が新規職員を一名任命し専任職員二
名とする。

○昭和三十九年九月～四十三年九月 定数二十人

市来哲次郎(油) 菅村芳憲(油) 福秀伸(油) 和宏(油) 大吉正
訓(和) 沖治(手) 川辺隆義(手) 大坪政照(手) 伊地知季良(膏)
泉貞吉(出) 池野新秀(睦) 福峯哲磨(團) 竿田吉秀(團) 末川
寅吉(團) 福島忠綱(團) 伊井重保(玉) 伊集院武一(大) 皆川
浅雄(膏) 西村内則(谷) 中村静造(瀬)

四十一年三月の第一回定例会および十二月の第四回定
例会において一般質問を行い、その後四十三年から毎定
例会(年四回) 一般質問を行うようになった。

四十一年から議会報告会(後の町民と語る会) が町内
全字で実施されるとともに、四十二年から「議会報」が
発刊された。四十一年、議事堂建設調査特別委員会を設
置し、四十二年、和泊港改修促進特別委員会を設置した。

四十二年、議場・議員控室・議長室・事務局・湯沸
室・書庫・便所を備えた議事堂が完成し、女子職員一名
を採用して事務局職員が三人となった。

四十二年から議会活動中の災害について公務災害補償

制度が適用されるようになった。

議員歴が十二年未満の場合議員共済会から退職一時金
が支給されるようになった。

○昭和四十三年九月～四十七年九月 定数二十人

菅村芳憲(油) 和宏(油) 大吉正訓(和) 沖治(手) 川辺隆義(手)
大坪政照(手) 関根直秋(手) 福山道澄(膏) 泉貞吉(出) 池野
新秀(睦) 福峯哲磨(團) 竿田吉秀(團) 末川寅吉(團) 福島忠
綱(團) 東一徹(西) 竹下池光(根) 谷山幸雄(大) 皆川浅雄(油)
池田内義(内) 野村義広(米) 福永貞雄(仁)

委員会活動が活発になり島外視察調査が行われるよう
になった。

四十六年から陳情調査特別委員会を設置した。

○昭和四十七年九月～五十一年九月 定数二十人

菅村芳憲(油) 福秀伸(油) 和宏(油) 川添貞雄(油) 東文勇(和)
(49・7依願退職) 沖治(手) 川辺隆義(手) (51・3死亡)
関根直秋(手) 福山道澄(膏) 泉貞吉(出) 西宜俊(睦) 竿田吉
秀(團) 末川寅吉(團) 末川曠(團) 東一徹(西) 竹下池光(根)

伊井重保(国) 皆川浅雄(国) 森西元(内) 永山宜禎(俗)
 四十七年から決算認定は全員による特別委員会で行うようにし、五十一年からは当初予算についても特別委員会で審議するようになった。
 四十九年から議員年金受給者の年金額が物価スライドを実施し毎年改定されるようになった。

○昭和五十一年九月～五十五年九月 定数二十人
 菅村芳憲(国) 福秀伸(国) 和宏(国) 川添貞雄(国) 前義一(和)
 沖治(手) 竹佳貞(手) 福山道澄(国) 泉貞吉(出) 森英吾(出)
 竿田吉秀(国) 時田信良(国) 中屋一言(国) 東一徹(出) 大里章幸(国) 柳川敏増(大) 皆川浅雄(国) 森西元(内) 朝戸貞造(後) 永山宜禎(俗)
 予算・決算特別委員会の他次の特別委員会を設置した。

- 51・9 空港・港湾建設促進特別委員会 全員
- 52・9 沖永良部台風災害復旧促進特別委員会 全員
- 53 委員会室・傍聴席拡張のため議事堂増改築。

○昭和五十五年九月～五十九年九月 定数二十人

福秀伸(国) 和宏(国) 川添貞雄(国) 皆川浅雄(国) 前義一(和)
 (57・5死亡) 沖治(手) 竹佳貞(手) 伊地知勇(国) 泉貞吉(出) 西宜俊(出) 森英吾(出) 竿田吉秀(国) 末川寅吉(国) 末川曠(国) 中屋一言(国) 東一徹(出) 有馬賢吉(国) 森西元(内) 朝戸貞造(後) 永山宜禎(俗)

- 予算・決算特別委員会の他次の特別委員会を設置。
- 55・9 港湾・空港建設促進特別委員会 全員
- 57・9 農業基盤整備事業調査特別委員会 全員
- 58・1 農業基盤整備事業促進特別委員会 全員
- 58・1 航路対策特別委員会 全員
- 58・2 全国町村優良議会としての表彰を受ける。

○昭和五十九年九月～六十三年九月 定数二十人

和宏(国) (60・1死亡) 皆川浅雄(国) 伊集院徳二(出) 沖治(手) 竹佳貞(手) 和田川松(和) 伊地知勇(60・6死亡) 泉貞吉(出) (60・7依願退職) 西宜俊(出) 森英吾(出) 末川寅吉(国) 末川曠(国) 中屋一言(国) 新屋秀喜(国) 東一徹(出) 新里誠次(和) 宮永謙二(和) 中田貫(内) 金元良治(後) (60・7死亡) 永山宜禎(俗)

和議員・伊地知議員の死亡による欠員および泉議長の

町長選挙出馬により三名の欠員を生じたため、町長選挙に合せて補欠選挙が行われ次の三名が当選した。

昭和六十年七月～六十三年九月

安田克彦(国) 朝戸貞造(後) 川添貞雄(出)

二 歴代議会議長 (任期四十七年九月までは一年間、その後は四年間)



初代 市来政興 (26.9~35.9)



三代 伊地知季良 (36.3~41.9)



二代 本田義明 (35.9~36.3)



四代 竿田吉秀 (41.9~47.9)

三 歴代副議長



五代・七代 沖治 (47.9~55.9) (60.7~)



六代 泉卓吉 (55.9~60.7)

初代	安田 前間	26・9	31・9	任期満了
二代	本田 義明	31・9	35・9	〃
三代	伊地知季良	35・9	36・3	議長就任
四代	竿田 吉秀	36・3	39・9	任期満了
五代	池野 新秀	39・9	41・9	〃
六代	沖 治	41・9	47・9	〃
七代	末川 寅吉	47・9	51・9	任期満了
八代	泉 貞吉	51・9	55・9	〃
九代	皆川 浅雄	55・9	59・9	〃
十代	和 宏	59・9	60・1	1・16死亡
十一代	東 一徹	60・1	60・1	〃

申し合わせにより副議長任期は二年

法定どおり任期は議員の任期となる(四年)

四 和泊町出身代議士・その他

※国会議員

第一回 明治三年七月 政友会 坂本元明
第十一回 明治四一年五月

(和泊村戸長)

※県議会議員

補欠選挙 明治六年十一月 土持綱義

第十一回 二九・三 撰 正鋭

十二 三一・九 同

十三 三二・九 同

十四 三六・九 同

十五 四十・九 沖島曾徳

第二十回 昭和二年九月 沖 元綱

補欠選挙 五・十 沖 元隆

第二二回 六・九 同

○昭和二九年二月二十日大島郡復帰特別選挙当選

沖 元達(新政会)

第二六回 昭和三十年 四月 沖 元達(自由民主党)